

【フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

福岡県筑紫郡那珂川町立岩戸小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	1	1	1	10	21
児童数	47	42	42	34	39	39	1	253	

研究の概要

1. 主題(テーマ)

子供の「確かな学力」を向上させる学習指導の創造
 - 重視する学力や指導過程に応じた教材開発の工夫をとおして -

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

全 学 年 : 算数科
 (学校として、当該教科に関する問題解決的な学習の研究実績があるため)
 3年生～6年生: 理科
 (生きる力育成のために、問題解決的な学び方を生かす教科として)

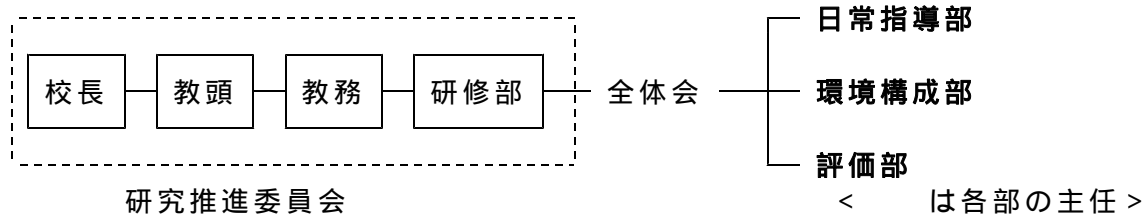
(2) 年次ごとの計画

平成14年度
 テーマ
 子供の「確かな学力」を向上させる学習指導の創造
 仮説
 子供の学力や関心・意欲に応じた単元構成を仕組み、指導形態を工夫し、問題解決的な学び方を身につけさせれば、子供の「確かな学力」が向上するであろう。
 研究内容・方法
 補充的・発展的な学習の開発
 ・学習指導過程の開発
 ・岩戸タイムの習慣化

平成15年度
 テーマ
 子供の「確かな学力」を向上させる学習指導の創造
 仮説
 子供の学力や関心・意欲に応じた単元構成を仕組み、指導形態を工夫し、教具を学年を通して適切に活用すれば、子供の「確かな学力」が向上するであろう。
 研究内容・方法
 ・教材開発の工夫(事物・現象、教具・学習具、板書・ノート)
 発展的な学習の開発
 ・岩戸タイムの内容の改善

平成 16 年 度	<p>テーマ 子供の「確かな学力」を向上させる学習指導の創造 仮説 子供の学力や関心・意欲に応じた単元構成を仕組み、指導形態を工夫し、 指導と評価の一体化を図れば、子供の「確かな学力」が向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩戸カリキュラム作成（算数科，理科） ・発展的な学習の開発 ・研究のまとめ（学力向上） ・岩戸タイムの検証
--------------------	---

(3) 研究推進体制



<p>< 研究推進委員会 > 月1回及び必要に応じて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の計画・運営・反省 ・学習指導案審議 	<p>校長，教頭，教務主任 河鍋，江頭，井上^彰，平嶋，村山 算数部主任： 江頭 理科部主任： 井上^彰</p>
<p>< 日常指導部 > 必要に応じて話し合いを持ち，提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩戸タイム（基礎・基本）の内容構想 ・発表の仕方等の表現力の育成全般について ・食に関する指導の推進 	<p>基礎： 村山，中牟田，佐々木，井上 河鍋 表現： 平嶋，井上^峰，平島，龍， 江頭 食： 大曲，隅田，諸藤，松永</p>
<p>< 環境構成部 > 必要に応じて話し合いを持ち，提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数ルーム・理科室の環境，教具整備 ・算数黒板の作成及び促進 ・学校環境整備計画の作成と実施 	<p>田中，中牟田，佐々木，平島，隅田， 辺春，八丁，平島^亜</p>
<p>< 評価・カリキュラム作成部 > 評価及び岩戸カリキュラム第3版について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価，作成計画（内容・形式・日程等） ・補充的・発展的な学習の教材開発 	<p>河鍋，大曲，井上^峰，井上^彰，龍， 江頭，榎田，平嶋，村山</p> <p>各学年部1名</p>

平成15年度の研究成果及び課題

1. 研究成果

・全国標準学力検査による学力の向上が見られた。
（右表参照）

・教材開発という視点を昨年度の研究の上に立って実践したことにより、子供の算数的活動が活性化し、それぞれの基礎力と発展力に応じた学習指導が充実した。また、校内の授業研修会においても、教材の有効性は子どもの姿をもとに検証が容易になり、校内研修の活性化にもつながった。

・教具や学習具を工夫したことにより子どもたちのノートの表現力が高まりがみられた。

NRT検査結果から

2年生	H14	H15	増減	5年生	H14	H15	増減
国語		47.3	-	国語	44.2	45.2	+1.0
算数		49.0	-	算数	40	42.5	+2.5
				理科	42.1	45.6	+3.5
3年生	H14	H15	増減	6年生	H14	H15	増減
国語	48	48.6	+0.6	国語	51.5	53.4	+1.9
算数	45.5	47.5	+2.0	算数	51.9	52.5	+0.6
4年生	H14	H15	増減	理科	48.0	49.4	+1.4
国語	44.2	46.1	+1.9				
算数	44.6	45.9	+1.3				
理科		51.6	-				(偏差値)

2. 今後の課題

・更なる「確かな学力」の向上のために昨年度の学習指導の有効性と今年度の教材開発の有効性をより結びつけるために評価に視点を当て、指導との一体化を図っていく必要がある。

学力等把握のための学校として取組

定期的な学力検査の実施（年1回 NRT全国標準学力検査 1学期実施）

フロンティアスクールとしての成果の普及について

公開授業研究会

第1回 平成15年 6月10日（火） 算数科・理科

第2回 平成15年10月28日（火） 算数科

実践交流会

平成16年 2月10日（火） 算数科・理科

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無